

標 題	島前・島後合同での 美味しまね認証取得者（農産物）による意見交換会を初めて開催！
-----	---

（ダイジェスト）

令和5年11月20日、海士町役場で、隠岐地域の美味しまね認証取得者（農産物限定）を集めたGAP取組に関する意見交換会を開催しました。

意見交換会は、当日行われた「海士の本気米生産組合」の美味しまねゴールド団体認証の交付式にあわせて企画し、集まった認証取得者でお互いのGAPに関する考え方や実践状況を話し合いました。

また、この会では、今年7月から各地域の生産者団体でも使えるようになった「生産者団体、サポーター企業活動強化助成金」の活用方策も検討しました。

現在、隠岐地域における農産物での美味しまね認証取得状況は、個別認証8経営体、団体認証1組織となっています。認証取得者からは、自身のこれまでの審査・監査の経験に基づき、日々GAPを実践する一方で、認証取得者同士で意見を交わす機会が少なく、他の取得者の状況を知りたいという声が寄せられていました。

そこで、今回、お互いの状況を知ること、さらなる理解を深め、今後もGAPの継続的な取組みにつなげられるようにとの狙いから意見交換会を開催しました。

当日は、島後から1集落営農法人、島前から3経営体（個人2名、1集落営農法人）の出席がありました。少人数の集まりでしたが、「GAPに取り組んで良かったこと」や「GAPに取り組んで苦労していること」について、それぞれの考えを語ってもらいました。良かった点として、「自信を持って売ることができる」「組合員全員で作業を把握することができた」「安全意識が高まり、万が一の事故対応手順を明確にできた」といった話が出ました。一方、「メリットをまだ感じられていない」等の声もありました。また、そのほかには、「一般消費者の美味しまね認証をはじめとしたGAPへの認知度がまだ低い」や「認証をうまく活かせていない」等の意見も出ました。

今回の意見交換を通じて、認証取得者は、それぞれの考えや状況が聞ける良い機会となるとともに、共通課題として「消費者のGAPに対する認知度を高める」ためのPR活動の必要性を改めて認識することが出来ました。今後、隠岐地域で、どのようにして美味しまねのPR活動を進めるのかを皆で考えていくきっかけにもなりました。

農業振興部では、今後も経営の改善や販売促進に向けて、関係機関と連携するほか、助成金も活用しながら、認証取得者がGAPに取り組んで良かったと感じてもらえるように取組支援を継続します。



【意見交換会の様子】